

2020 次期総統選挙に向けた台湾政治動向：党内予備選挙を巡る攻防

石原忠浩（台湾・政治大学日本研究プログラム 助理教授）
（元（財）交流協会台北事務所専門調査員）

2020年1月投開票の次期総統選挙に向けた与野党のかけひきが激しくなっている。与党民進党は現職の蔡英文総統に対し、ポスト蔡英文の最有力とみなされていた頼清徳前行政院長が挑戦し、政権奪回をもくろむ国民党は、朱立倫前新北市長、王金平前立法院長といった古参政治家に加え、昨年大ブレイクした韓国瑜高雄市長、鴻海精密工業を率いる著名企業家の郭台銘氏が名乗りを上げ大混戦となっている。さらに、無所属ながら、昨年の台北市長選挙で僅差で再選を果たした柯文哲氏も出馬の可能性を否定しておらず、次期総統選挙に挑む顔ぶれは5月上旬の段階で未定という前代未聞の混戦状況となっている。本稿では、昨年の統一地方選以降の台湾政治の流れを整理する。なお、两岸関係、対外関係は紙幅の都合上触れない。

1. 次期国政選挙は2020年1月11日に実施

選挙事務を統括する中央選挙委員会は、2018年12月に3回にわたり実施した公聴会及び主要政党の民進党、国民党、時代力量、親民党から意見を聴取した結果、次期総統・副総統選挙及び立法委員選挙を2020年1月11日に同時実施する決議を行った。

2018年11月の統一地方選挙と同時に実施され

た住民投票については、行政院から提出された関連法案が立法院で審議されているが、行政院提出の草案では、同性婚など人権問題に関連するテーマを議題から外すべきとの方向で修正されているほか、選挙事務予算を削減するとの立場から旧法では国政選挙と同時に「実施すべき」であるとの表現を緩めた内容となっており、6月までの立法院での議論次第であるが、今後住民投票と国政選挙は別々に実施される可能性が高くなっている。

2. 5月上旬段階での総統選挙に関する動向

5月上旬の段階で、次期総統選挙の候補は民進党、国民党ともに複数の候補が名乗りをあげているほか、昨年の統一地方選挙で再選を果たした柯文哲台北市長のほか、2012年、2016年の総統選挙に出馬し、一定の得票数を獲得している宋楚瑜親民党主席も出馬の可能性を残すなど混沌としている。

そうした中でも、当地の有力メディアの多くは、民進党、国民党、柯文哲の三つ巴の戦いを想定した世論調査を行った。

4月下旬に「聯合報」、「TVBS」など大手メディアは総統候補の支持率調査を行った。表1は聯合報による国民党有力候補4氏の支持率比較である

表1 国民党総統候補の支持率調査

	韓国瑜	郭台銘	朱立倫	王金平
全体支持率	26%	19%	13%	11%
20-39歳	21%	23%	16%	12%
40-59歳	30%	22%	14%	10%
60歳以上	28%	9%	7%	11%
藍系支持者	48%	23%	13%	4%
緑系支持者	7%	17%	16%	26%

資料元：「2020 総統大選 本報最新民調 26%拱韓 19%挺郭」、「聯合報」、2019年4月22日、頁1。

表2 民進党総統候補の支持率調査

	全体		民進党支持者	
	20181224	20190421	20181224	20190421
頼清徳	46%	35% (- 11)	57%	38% (- 19)
蔡英文	14%	25% (+ 11)	26%	51% (+ 25)
いずれも不支持	25%	21%	8%	4%
未決定	16%	19%	9%	7%

資料元：「2020 大選 本報民調 綠營支持度 蔡頼逆轉」、『聯合報』、2019年4月22日、頁2。

が、韓市長が他の三氏をリードする結果となった。支持者の年齢層では、40歳以上の中高年齢層は韓市長が独走状態であるが郭氏は40歳以下の層でトップを確保した。政党支持層では、韓市長が藍系支持者からの圧倒的支持を得ているのに対し、朱、王両氏の古参政治家は緑系からの支持が多い結果となった。

次に、民進党候補の支持率調査からはこの4ヶ月の変化が感じ取れる。昨年12月と今年4月の調査による比較であるが、全体調査と民進党支持者に限った調査結果を報じている。全体調査では、頼前院長が蔡総統を依然としてリードしているが、民進党支持者を対象を絞った調査では、蔡総統への支持が逆転する結果となった。これは、蔡総統が現職の強みを活かして、地方視察を頻繁に行い、自身の3年にわたる業績を宣伝したほか、農民団体との会談では肥料価格の引き下げを提起するなど即効性のある政策をアピールし、民進党

支持層を中心に支持を拡大、浸透した証左と言えるのかもしれない。

本誌4月号でも指摘したが、民進党が党内予備選の日程を当初の予定より1か月以上遅らせ5月末以降に延期したことについて、頼陣営が強い不満を表明したのは、予備選期間が延びることは、行政資源を活用できる「蔡陣営に有利、頼陣営には不利」となる懸念を裏付け結果となっている。

上述した国民党、民進党候補の支持率調査を踏まえたうえで、柯台北市長も交えて行った聯合報の調査結果を表3に示した。4月末の段階では、韓郭両氏が国民党公認として出馬した場合は、柯市長、蔡総統と頼前院長のいずれの候補よりもリードする結果となった。一方で国民党が朱立倫、王金平を公認候補とした場合は、柯市長の支持率がトップとなった。言い換えるならば、国民党は韓郭両氏が出馬すれば、有利な戦いだが、朱王両氏では柯市長の後塵を拝する可能性が高く、

表3 国民党、民進党、柯文哲有力3候補の支持度比較

国民党	無所属	民進党
韓国瑜 36%	柯文哲 26%	蔡英文 20%
韓国瑜 36%	柯文哲 26%	頼清徳 21%
郭台銘 31%	柯文哲 27%	蔡英文 20%
郭台銘 30%	柯文哲 28%	頼清徳 22%
朱立倫 25%	柯文哲 34%	蔡英文 20%
朱立倫 23%	柯文哲 34%	頼清徳 23%
王金平 13%	柯文哲 39%	蔡英文 19%
王金平 11%	柯文哲 39%	頼清徳 24%

資料元：「2020大選 本報民調 韓国瑜 36%勝算最高 郭台銘吸泛綠票略勝一籌」、『聯合報』、2019年4月22日、頁3。

表4 国民党、民進党両党の有力候補の支持度比較

国民党		民進党	
韓國瑜	52%	蔡英文	34%
韓國瑜	50%	賴清徳	37%
郭台銘	44%	蔡英文	35%
郭台銘	42%	賴清徳	38%
朱立倫	41%	蔡英文	35%
朱立倫	36%	賴清徳	41%
王金平	27%	蔡英文	35%
王金平	22%	賴清徳	42%

資料元：「韓國瑜政治獻金爭議，2020 總統可能人選民調」、『TVBS』、2019年4月29日、https://cc.tvbs.com.tw/portal/file/poll_center/2019/20190502/11c410e5cfc598e0e678224513a9161d.pdf

民進党候補は現段階では3番手に位置していることが見て取れよう。

なお、「TVBS」も類似の世論調査を4月下旬に行っているが、国民党有力候補の支持率は韓>郭>朱>王、民進党も頼>蔡という支持率順位で聯合報の調査と大同小異である。一方、「TVBS」は三者対決の調査以外に柯市長が出馬しない場合の国民党 VS 民進党の二大政党対決の調査も行った(表4)。この調査でも、国民党の韓郭両候補の両候補が民進党の蔡頼両候補にリードする結果となった。

次節以降は、民進党、国民党の動向をそれぞれ整理する。

3. 民進党の動向

民進党は昨年の統一地方選での大敗後、政権運営の立て直しを図るため、党人事、行政院の人事刷新をはかることとなった。

選挙敗北の責任を取り早い段階で総辞職を表明していた「頼清徳内閣」は年明けの1月10日に総辞職し、新任院長には、陳水扁政権時代に同職を務めた蘇貞昌氏が「復帰」し、副院長には陳其邁氏が就任したが、その後の組閣で台中市長選挙で再選に失敗した林佳龍氏が交通部長に抜擢されたことで、台湾メディアや国民党関係者は新北、台

中、高雄市長に落選した三氏が要職に就いたことで「敗戦者聯盟」、「失敗者内閣」などと揶揄した。

蔡主席に代わる党主席には、蘇嘉全立法院長が同職を辞任し党主席に就き、党再建を担う可能性も報じられたが、最終的には党内主流派に押される形で陳水扁政権で総統府副秘書長、行政院秘書長などを務めた卓榮泰氏が推挙され、1月5日に実施された主席選挙でシンクタンクを主催し、現政権に批判的な言動を展開する游盈隆氏を退け主席に当選した。秘書長には陳水扁台北市長時代の側近だった羅文嘉氏を抜擢した。

一方、蔡総統は年初に習近平国家主席が台湾同胞に告げる書40周年時の講話で、「一国両制による統一」をはじめ強硬な対台湾政策の路線を打ち出したことに対し、強く反発し、中国側が台湾側に一貫して求めている「92年コンセンサス」の受け入れを改めて拒否した。また、その後が発生した中国軍機の台湾海峡中間線の越境飛行をはじめとした台湾に対する威嚇的な軍事動向に強硬な言動で中国側をけん制した。

春節明けの2月19日には、蔡総統は米CNNの独占インタビューを受け、次期総統選挙への出馬を表明するとともに、過去の自身の一部施政に対し反省を述べる一方で「やるべきことがまだたくさんある」として、再選への意欲と自信を語った。

3月16日の立法委員補選は「引き分け」で党勢凋落を止血したことで党内では、「英徳配」(蔡頼ペア)という考えられる中での最強コンビで韓國瑜を迎え撃つべきだとの声が高まった。しかし、週明けに頼氏が総統選挙党内予備選への登記を完了したことで、最強ペア形成の目論見は崩れた。翌日の台湾各紙は「奇襲」、「震撼弾」、「党内有力派閥の新潮流派も困惑」などと驚きをもって頼氏の出馬を報じた。

蔡総統は、自身の党内選挙の手続きを済ませた後、3月下旬に南太平洋の友好国であるパラオ、ナウル、マーシャル諸島を訪問し、帰国時のランジットではハワイに立ち寄り関係機関への視察

のほか、ワシントンで開催されたシンポジウムにビデオ中継で講演を行うなど精力的に活動して帰国した。帰国後の3月29日には、現副総統の陳建仁氏が来年5月以降は副総統職にはとどまらなると表明したが、この動向は蔡陣営が頼氏を取り込み「英徳配」結成に向けた布石とみなされた。

4月8日に、民進党中央は蔡総統と頼前院長の両名を交えて話し合いを行ったが、各自が従来の主張をただけで協議は不調に終わり、当地メディアは「蔡頼直球対決へ!」と報じた。協議不調のまま「直球対決」に突入するかと思われた矢先、4月10日に開催された民進党中央執行委員会で予備選の5月末以降への延期を決定した。

その後、蔡総統は、15日に台湾関係法40周年記念シンポジウムの開催の際に、AIT主席、ライアン米下院前議長らとともに出席し、現職総統として米台関係の強化を内外に印象付けた。両陣営は地方行脚やメディアへのアピールをする傍ら、SNSなどを中心としたネット空間におけるネガティブな批判合戦が激化していることに対して、非難合戦の様相も見せた。蔡総統は、「党内選挙の実施は党内の亀裂が拡大される」とし、「話し合いによる自身の候補選出」を支持者に訴えた。一方で、頼陣営は民主的競争によって党内の総統候補を選出するプロセスの重要性を強く訴え、自身の党内選挙からの撤退はありえないと主張している。

このまま、世論調査による「直球対決」となるのか、話し合いによる選出になるのかは未だに不明であるが、民進党候補は国民党候補及び柯市長に支持率で落伍している現実を直視する必要がある。

4. 国民党の動向

(1) 有力者の相次ぐ出馬宣言

昨年11月の統一地方選挙で大勝した国民党は、政権奪回に向け自信を得たことで、党内からは早い段階で総統候補を選出し、立法委員選挙も含む

次期国政選挙に挑むべきだとする声が高まった。

こうした雰囲気の中で新首長就任日の2018年12月25日、朱立倫前新北市長は満を持して次期総統選挙への出馬表明を行った。朱前市長は、2015年1月に前年の統一地方選挙で大敗して引責辞任した馬英九主席に代わり、火中の栗を拾う形で党主席に就任し、その後も頑なに固辞した挙げ句、最終的には党内の圧力に抗えず、クーデターに近い形で洪秀柱を党公認候補から引きずり下ろし、2016年の総統選挙に出馬したが惨敗している。

朱前市長の出馬表明直後に聯合報が実施した世論調査では、ご祝儀相場も後押しし、民進党の蔡頼両名との対決を想定した調査で朱56%蔡22%、朱47%頼32%と圧勝の結果となって表れた。一方で柯市長が出馬した三者対決時の調査では、柯41%朱28%頼18%となり、柯市長の後塵を拝する結果となった。

当初は、朱前市長、王金平前院長のほか、呉敦義主席も「総統選挙出馬に30年間準備してきた」と吐露したように出馬への野心を隠そうとせず、党内選挙の既存のルール(党員投票30%、世論調査70%)を自身に有利とされる党員投票の比率を50%に引き上げることを画策するなど、世論調査だけによる決定を主張する朱陣営を牽制する動きも見られたが、2月末には党内規定に従い上述の「三七方式」に従って決定する方針を党中央は採択した。また呉主席自身の出馬に関しては3月の立法委員補選後に決定するとした。その後、2月26日には、周錫瑋元台北県長、3月7日には王金平前院長が党内選挙への出馬表明を行った。

しかし、総統選挙の前哨戦とも称された3月16日の立法委員補選が「引き分け」に終わり、翌々日に頼前院長が民進党の党内選挙出馬を決めると国民党内では、危機意識が高まり、韓市長期待論が浮上したことで、呉主席は、自分の出番は無いと判断したのか4月10日に不出馬宣言を行い、韓市長を中心とした候補者選びに腐心することに

なった。

(2) 韓国瑜期待論と郭台銘出馬表明の衝撃

春節以降の台湾政治は韓市長を中心に展開した。韓市長は就任直後こそ政見公約通り、高雄の経済振興に邁進する姿が毎日のように報道されたが、2月中旬以降は、地方首長の範疇を超え两岸政治問題、国防問題等国政イシューについての言動が目立つようになった。2月中旬、韓市長は週刊誌のインタビューで蔡總統の两岸政策について「独立する勇気もなく、中華民国も愛さない、無責任だ」などと批判した。

一方で、注目すべき事象は就任直後の首長としては、極めて異例の頻繁な外遊である。韓市長は、就任4ヶ月の間に3度も外遊を断行したが、その外遊先での言動が世論の韓期待論と連動していく。

外遊その①

2月24-28日のマレーシア、シンガポール訪問：

主な目的は、高雄の農漁産物の売り込み、現地華人社会との交流のほか、マレーシアでは州議員、下院議員との会見などが報じられた。



韓市長とツーショットの国民党の立法委員党内予備選参加者

外遊その②

3月22-28日の香港・マカオ・中国南部訪問：

韓市長は選挙の時から「政治0%経済100%」のスローガンを掲げるなど、極端な経済重視姿勢を打ち出し、政治原則に拘り中国との経済関係が停滞していると民進党政権を厳しく批判してきた。今回の訪中の目的も経済交流活動の促進であり、農漁産物の売り込み、企業誘致、都市交流であったはずだが、実際には政治活動が際立つこととなった。

香港、マカオでは、当地トップの特別行政区行政長官と会見したほか、中国の出先機関の中央政



韓市長の総選挙出馬を支持する台北市議の看板

府駐香港連絡弁公室内で関係者と会見した。また深圳、厦門では中共市委員会書記と会見し、さらに深圳では中国政府の台湾問題主管機関である劉結一國務院台湾弁公室主任と会見し、1月上旬に習近平主席が「一国両制度下の統一促進」を明白にし、同発言に対し台湾世論が大きく反発していたにもかかわらず、韓市長は「92年コンセンサスを強く支持する」など、中国側に迎合するような言動が緑陣営だけでなく、幅広い台湾世論から「台湾が一国両制度の枠組みに押し込まれる」と厳しく指弾されたが、韓主張は「主権と経済は分けて考えるべきだ」との持論を展開し、意に介することはなかった。

外遊その③

4月9-18日米国訪問：

ハーバード大、スタンフォード大での非公開座談会における講演とボストン、LAなどでの華人社会との交流、企業視察が主な目的であったが、この頃には、党内で韓市長を総統候補に推す声が高まっていたこともあり、訪米中の言動が逐一報道される異例の状況となった。訪米中においても、メディアからの次期総統選挙出馬についての質問は途切れることはなかったが、台湾経済の問題について言及した際、韓市長は「過去に3人の台湾大学法律学部（筆者注：台湾の最高学府であり、日本の東京大学法学部に相当）の卒業生が総統を務めたが（陳水扁、馬英九、蔡英文）、台湾経済と競争力は彼らが駄目にした」と発言したほか、日米中との関係においても「国防靠美國、科技靠日本、市場靠大陸」（国防は米国頼り、科学技術は日本頼り、市場は中国頼り）と論じた。特に、今なお台湾で一定の支持と人気を有する馬前総統への批判は、国民党陣営にも大きな衝撃を与え、「りんご日報」と「聯合報」は韓市長の同発言を15日付朝刊の一面トップで報じた。

「流れ弾」を浴びた形になった馬前総統の事務所は「馬総統は、金融危機と欧州債務危機を乗り切った」と指摘し、当時行政院長を務めていた呉

主席もTVインタビューで「自分が行政院長時代の台湾経済は好調だった」と不快感を露わに反駁していたのが印象的であった。自身の所属政党の前総統と現主席を批判したことで、党内から一定の反発を受けるのは想定内の反応だったのかもしれないが、これも「韓流スタイル」（韓式風格）であり、既存の国民党支持層とは異なる根強い「韓粉（韓ファン）」を魅了する理由なのかもしれない。

国民党は、そのまま韓市長を担いで選挙に臨むのかと思われた矢先、同15日に蔡総統ら政府要人も出席していた台湾関係法40周年記念シンポジウムに出席していた郭台銘氏が、韓市長の経済に関する発言を意識して「国防靠和平、市場靠競争、技術靠研發」（国防は平和、市場は競争、技術は研究開発頼り）と発言し、米頼みの安保への不安と技術革新は、他国に頼るのではなく、自身による研究開発努力が重要との企業家らしい発言をして注目されたが、翌日には「総統選挙への出馬を考慮しており、2日以内に決定する」と発言し、台湾世論を驚愕させた。その驚愕の余韻が残る中、翌17日には国民党中央常務委員会で呉主席より党中央委員会名誉状を授与され、その挨拶の場で総統選挙予備選への参加を正式に表明する激震となった。

郭台銘ショック後に米から帰国した韓市長は、23日に記者会見を開催し、自身の総統選挙への態度を初めて正式な形で語った。次期総統選挙については「責任を果たす気持ちはある」とし、出馬の可能性を否定しなかったが、「現行制度による党内選挙には参加できない」と指摘した。その一方で、「国民党上層部の密室政治は国民の期待とかけはなれたものになっている」と党上層部の運営を批判した。同声明を筆者なりに噛み砕いてみると、表面上？総統選出馬に躊躇しているのは、高雄市長に当選したばかりの立場として、市長職を途中で投げ出し総統選に臨むことは、高雄市民への裏切りにもなりかねないので理解できる。しかし、本音では、「党全体に要請されるのであれば、

予備選に出馬することは可能である」との強烈的な意思を示したことになる。しかし、密室政治批判は、馬前総統批判に続く党執行部及び郭氏の出馬宣言に至る一連のプロセスへの大きな不満の表出であり、党内部の権力闘争を赤裸々に反映したものと見え、藍系支持者にも大きな衝撃を与えており、筆者には国民党や韓市長自身にもダメージを与えた記者会見となったように思えた。

その後、国民党は、24日に中央常務委員会を開催し従来の「三七制度」の規定に代わり「2020 総統選挙提名特別辦法」を制定し、党内有力候補による全世論調査で候補を選出する方案を示し、同時に呉主席は自ら党内選挙に出馬意向を示している王、周、朱の三氏及び韓市長と個別に会談を行った。その場でも韓市長は、「高雄市民の期待が肩にかかっており、現在の状況では党内予備選への参加はできない。しかし、党中央が他の方法やアレンジを有するのであれば、尊重する」と記者会見と同様の回答を示した。

5月4日に党中央は、党内選挙への参加は、「申し込み手続き」、「選挙事務費 500 万元の納付」、「候補者の政見発表会への参加」の3要件を満たす必要があるとの決議を行った。本決定は、自らの意志による出馬を渋る韓市長に対して、例外扱いはせず、いかなる候補者も規定の手続きに従って予備選への参加を義務付ける条件を提示したことになる。

国民党の基層レベルや、立法委員選挙に挑もうとする人々には韓市長待望論が圧倒的に強く、台北市の筆者の選挙区でも現職市議が現職立法委員に党内予備選で挑む候補は、「韓國瑜の総統選挙出馬を支持する」と書かれた看板を掲げており、韓流人気にあやかるという狙いが明白であり、馬英九人気絶頂の時代を彷彿させられた。呉主席を中心とする執行部は、最人気の韓市長との微妙な緊張関係を保ちつつ、党内団結、分裂回避を第一として党内選挙を運営する難しい舵取りが迫られている。

国民党は5月14日に中央常務委員会を開催し、改めて総統候補指名特別辦法を採択した。同辦法によると、党中央が指名した曾永権副主席、郝龍斌副主席らを含む協調小組が選挙情勢を評価し、選挙に勝てる実力を有する党员を予備選に招聘する形で有力候補を選び、6月10日に予備選参加リストを公表する。その後、同23日から7月4日にかけて北部、中部、南部で候補による3回の政見発表会を行い、7月6日から14日にかけて世論調査を実施して、同調査の結果をふまえて、7月28日の党大会で正式に党公認候補を指名するとの決定を行った。同辦法の採択により、高雄市民への約束という理由から、自主的な出馬を渋っていた韓高雄市長が党中央に要請される形で総統選予備選出馬への道が開かれることとなった。

5. 柯文哲台北市長の動向

柯市長も韓市長と同様に総統選出馬に対し、曖昧な発言に終始し時には、昨今の韓流ブームに埋没する中で「自分の存在が周辺化されつつある」など自虐的なボヤキにも似た発言が垣間見られるが、自身の出馬については6月以降に考えると述べている。

政党組織を持たない、柯市長にとっては選挙時に吹く風が重要であることは論を待たない。1月の台北市の立法委員補選では、自身の直系候補が惨敗したことで組織の重要性を痛感し、政党立ち上げの必要性に言及したこともあったが、その後は具体的な動きはない。

柯市長の取りうる戦略は、市政に邁進し着実に成果を重ね支持を広げる一方で、SNSを駆使し若年層の支持層を引き続き開拓していくことなどに限られてくるのかもしれない。とはいえ与野党の総統候補選出過程で混乱が継続し、国政にも影響を与えるような事態になれば、台湾世論から、民進党でもない国民党でもない第三勢力の伸長への期待が湧きあがることも想起され、柯市長は動く

機会を虎視眈眈と伺っているのかもしれない。

6. 若干の展望

民進党、国民党の総統候補を決める党内選挙は延期されているものの、両党では4月以降、総統選挙と同時に実施される立法委員の選挙区候補の党内予備選が開始している。台湾の大政党の選挙区候補の選出は、複数の候補が名乗りをあげた場合は当該選挙区が現職か否かに関わらず、ほとんどが党内選挙を実施している。民進党の中では、6期連続の当選者はじめ、複数の現職委員が予備選挙で新人候補に敗れるなど、白熱した展開が繰り広げられている。

昨年11月の統一地方選挙で民進党が大敗した

時は、多くの台湾人が4年前の選挙で惨敗した国民党が坂を転げ落ちるように2016年の国政選挙でも一敗地に塗れたのを想起し、2020年の国民党政権の復活を予想したはずである。しかしながら、総統選挙まで7か月前に迫った段階で「上げ潮の国民党」、「凋落の民進党」の双方がそれぞれ党内権力闘争を展開し、その間隙を縫って白色力量の柯文哲氏も機会を伺うなど混沌としており、全く先を見通せる状況にはない。

たとえ混沌としても、国民両党はともに遅くとも7月中には総統候補を選出し、柯市長も決断をしているはずである。今後2ヶ月は引き続き、熱い戦いから目が離せなさそうである。